

平成 27 年度広島県営水道経営プランの実施状況について

水 道 課

1 要旨

県営水道事業の運営にあたっては、「広島県営水道ビジョン（平成 23～32 年度）」に基づき、持続可能な水道事業の実現に向け、3年毎に、実行計画や収支計画を示した「広島県営水道経営プラン」を策定し、取組を進めている。

現プランは、計画期間を平成 26～28 年度とし、この3年間の具体的な取組を示したものであり、2年目である平成 27 年度の進捗状況について報告する。

2 プランの進捗状況（平成 27 年度）

プランでは、進捗状況を点検するため、実施項目ごとに指標を設定している。

平成 27 年度の進捗状況については、12 指標のうち、「プランどおり」が 10 項目、「プラン期間中に目標達成が困難」が 2 項目となった。

| ビジョンの柱 | 実施項目 | 進捗状況 | | |
|----------------------|------|------|---|---|
| | | ○ | △ | × |
| A 経営基盤の強化 | 4 | 3 | | 1 |
| B 人材育成と組織活力の向上 | 3 | 3 | | |
| C 信頼性向上のための水道システムの充実 | 5 | 4 | | 1 |
| 合計 | 12 | 10 | 0 | 2 |

※ ○：プランどおり △：遅れはあるが、プラン期間中に目標達成見込み ×：プラン期間中に目標達成が困難

3 平成 27 年度の主な取組状況等

A 経営基盤の強化

[平成 27 年度の主な取組と課題]

- 平成 27 年 4 月から指定管理者による業務を開始した沼田川水道用水供給水道・沼田川工業用水道において、三原市に事務委託していた宮浦浄水場についても指定管理者制度を導入するため、指定管理者選定委員会を開催するなど選定手続を行い、平成 28 年 4 月から指定管理者制度に移行した。
- 今後 40 年間の投資・財政試算を行い、将来の水需要が減少する中、更新投資が料金に与える影響を検討し、施設のダウンサイジングや受水市町との連携強化による更新投資の縮減など、今後の取組方針を定めた。
- 工業用水については、増量 1 件、給水種別変更 1 件、減量 2 件で、契約水量は平成 25 年度末に比べて 7,912 m³/日の減量となった。この減量は受水企業の事業計画の見直しに伴うものであるため、改善は困難な状況であり、費用を縮減する取組により、収支均衡を確保する必要がある。

[平成 28 年度の主な取組方向]

- 指定管理者制度については、引き続きモニタリングを実施し適切な制度運用に努めるとともに、指定管理者制度の導入効果・今後の課題について検討・整理を行う。
- 工業用水については、安定的な工業用水の経営を維持するため、受水企業の水需要に応じて施設の更新計画を見直し投資費用の縮減を図るなど、より一層の費用の縮減に取り組む。

B 人材育成と組織活力の向上

[平成 27 年度の主な取組と課題]

- 平成 26 年度に策定した「広島県営水道人材育成推進プラン」に沿った取組（OJT、技術力向上研修等）を実施し、県営水道事業を支える人材の育成と組織力の向上を図った。
- 市町の水道部局や指定管理者である榑水みらい広島などの他団体と、研修等を通じて技術交流を実施した。

[平成 28 年度の主な取組方向]

- 平成 27 年度に引き続き、人材の育成や他団体との技術交流を行い、職員のスキルアップ・技術継承を推進するとともに、組織活力の向上を図る。

C 信頼性向上のための水道システムの充実

[平成 27 年度の主な取組と課題]

- 「広島県営水道の送水のあり方基本計画」に基づく県営水道送水ルート強化整備事業として、Ⅱ期トンネル整備事業の本体工事に向けた関連工事等を推進した。
- 環境対策の推進については、施設更新の際に高効率機器に更新しているものの、国の電力施策の見直しに伴い発電 1kWh 当たりの CO₂ 排出量（CO₂ 排出係数）が増加していることなどにより、目標達成が困難な状況（実績：0.228t-CO₂/千 m³）にある。

[平成 28 年度の主な取組方向]

- 自然災害や事故による被害を最小限にとどめるため、Ⅱ期トンネル等の整備を進めるほか、管路更新の推進や危機管理体制の強化を図る。
- 環境対策の推進については、施設更新の際に高効率機器に更新して電力消費効率の改善を図り、可能な限り目標値に近づけるように努める。

4 収支状況

平成 27 年度の収支については、水道用水供給事業は、給水収益の増加などから、計画を上回る経常利益を確保した。

また、工業用水道事業は、沼田川工業用水道の契約水量が計画を下回り給水収益が減少したことなどから、経常利益で黒字を確保したものの計画額を下回った。

引き続きプランに沿った取組を実施し、効率的な業務運営に努める。

《平成 27 年度 収支比較》

(単位：百万円)

| | 用水 | | | 工水 | | |
|---------------|--------|--------|-----|-------|-------|-----|
| | 計画 | 決算 | 差引 | 計画 | 決算 | 差引 |
| 収益 (税抜) | 10,969 | 11,243 | 274 | 2,691 | 2,661 | ▲30 |
| 給水収益 | 9,713 | 9,870 | 157 | 1,994 | 1,939 | ▲55 |
| 費用 (税抜) | 9,111 | 9,075 | ▲36 | 2,419 | 2,443 | 24 |
| 維持管理費 | 3,858 | 3,872 | 14 | 1,458 | 1,533 | 75 |
| 減価償却費 | 4,541 | 4,498 | ▲43 | 758 | 731 | ▲27 |
| 支払利息 | 711 | 700 | ▲11 | 202 | 167 | ▲35 |
| 経常損益 | 1,858 | 2,168 | 310 | 272 | 218 | ▲54 |
| 特別損益 (税抜) | 0 | ▲42 | ▲42 | ▲10 | ▲45 | ▲35 |
| 純損益 (収益的収支差引) | 1,858 | 2,126 | 268 | 262 | 173 | ▲89 |